

佐世保から世界へ 「九州・長崎IR」の実現を目指して



多様な雇用の創出や定住人口の増加などを目指し、本市の8つのリーディングプロジェクトの一つとして取り組んでいる「IR特定複合観光施設誘致」。本年8月30日には長崎県が「カジノオーストリアインターナショナルジャパン(CAIIJ)」を設置運営事業予定者に決定し、県市、CAIIJが連携して国の区域認定に向けて取り組んでいます。

今回の特集では、CAIIJが提案するIRの施設紹介やIR誘致がもたらす6つの効果、地元関係者のご意見などをお知らせします。

地方創生の起爆剤となるIR

IRとは、ホテルや国際会議場、展示場、エンターテインメント施設などが一体となった複合型の観光施設です。IRといえばよくカジノが連想されますが、カジノ(ゲーミングエリア)は施設全体の延べ床面積の3%以内と法令で厳しく制限されており、誰もが安心して楽しめる施設です。

ハウステンボス地域にIRを誘致し、国内外からさらに多くの観光客が本市を訪れるようになれば、多様な雇用の創出や定住人口の増加、地域経済の活性化など、さまざまな効果が期待できます。

特に、新型コロナウイルス感染症の大きな影響を受けている今、IRは厳しい経済を立て直し、地域を活性化する「地方創生の起爆剤」として、大きな役割を担うことができる、本市は考えています。

産官学民一丸で取り組むIR誘致

昨年11月11日には、ギャンプル等依存症対策や治安対策などの懸念事項対策を検討する「九州・長崎IR安全安心ネットワーク協議会準備会」が発足しました。

また、本年4月12日にはIRの高い経済効果を九州全域へ波及させるために、九州経済界・議会・行政が一体となった「九州IR推進協議会(K-IRC)」が、4月23日には長崎国際大学や長崎県立大学を中心に、地域の観光産業で活躍するグローバルな人材育成を検討する「九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会」が発足しました。

佐世保、長崎、そして九州全体を盛り上げる安全安心なIRの実現に向け、さまざまな検討が進められています。

「九州・長崎IR」の実現に向けて

全国で最大3カ所とされているIR区域認定の獲得に向けて、これから県とCAIIJで区域整備計画を作成します。来年4月までに国へ申請し、国の認定を受けられれば、令和9年ごろのIR開業を目指しています。

今後も、県、市、CAIIJが一体となって取り組んでいきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

IR誘致に関する取り組みはテレビ番組「キラっ都させ」でも紹介します。



事業予定者が提案した九州・長崎IRのイメージ(令和3年8月30日時点)

クリスタルタワーホテル

ゲーミングエリアは全体の延べ床面積の3%以内

カジノ

パレスハウステンボス

MICE施設(交流拠点施設)

ジャパハウス(イベント施設)

メディカルモール(医療系施設)

コンサートホール

ジャパンスクエア(イベント広場)

迎賓館

宿泊施設(ホテルヨーロッパを改修)

IR候補地(約31ha)

最大6千席の国際会議場 (MICE 施設内)



展示総面積 2万㎡の展示施設 (MICE 施設内)



クリスタルタワーホテルと MICE 施設 (交流拠点施設)



多種多様なイベントを実施できるジャパンハウス



最先端テクノロジーを活用した送客施設



国内外を問わず幅広い世代が楽しめるショッピングモール



多種多様なイベントを実施できるジャパンスクエア



※紹介しているイメージは全て令和3年8月30日時点のものです。

IR 事業者
インタビュー

安全安心で地域に貢献でき

魅力ある IR 実現を目指します

カジノオーストリア

インターナショナルジャパン

代表取締役社長 林 明男 さん



私たちカジノオーストリアインターナショナルグループはオーストリア共和国にある国有企業で、ヨーロッパを中心に世界各国で事業を展開しています。私たちが持つ世界屈指のノウハウと国有企業ならではの誠実な運営、文化・芸術団体とのつながりを生かし、「安全安心で地域に貢献でき、幅広い世代の人々にとって魅力的な IR」の実現を目指します。

—どのような IR 施設を計画していますか—

IR の核となる MICE 施設には最先端の ICT を導入し、世界トップレベルで使いやすい国際会議場や国際展示場を造ります。宿泊施設には幅広い客層のあらゆるニーズに応えられるホテルや温泉旅館など、7つの施設、2千室以上の客室を計画しています。

また、多種多様なイベントなどが実施できるように、「モダンジャパン」をコンセプトとした複数の屋内外施設を予定しており、日本の文化芸術と最先端技術を掛け合わせたエンターテインメントを提供したいと考えています。その他にもショッピングモールやレストラン、ウィーンの音楽団などを誘致できるコンサートホール、メディカルモールなども計画しており、市民の方も気軽に立ち寄り楽しんでいただけるような施設を目指しています。

—依存症・治安対策はどう考えていますか—

当グループが世界各国で培ってきた知見やネットワークを最大限に生かし、世界最高水準の懸念事項対策を実施します。

また、地域の皆さんの「信頼」を得るために不正や贈収賄などの有害な影響は排除し、コンプライアンス(法令順守)を徹底した上で、事業を運営していきます。

—市民の皆さまにメッセージを—

佐世保をはじめとする九州の食や自然などの豊富な観光資源が、IR によってさらに光り輝くと確信しています。佐世保が世界に向けた日本とヨーロッパ文化の発信基地になれるように尽力していきます。長年の IR 誘致への期待に応え、国内初の IR 区域認定を勝ち取り、IR が開業できるように努めていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

(取材日 10月6日)

2 定住人口の増加

I Rや関連産業で多くの従業員が必要となるため、国内外からの移住が期待できます。また、若者の市内就職やUJIターンも期待でき、若年層の市内定着が促進されます。

雇用創出によるUJIターン
若者の市内定着



3 交流人口の増加

I Rへの観光やMICE施設を目的に、国内外から多くの来訪客が期待できます。また、来訪客の周遊観光によって、市内のさまざまな観光地や飲食店、商業施設などににぎわいが生まれます。

世界中から人の流れを創出



4 地域経済の活性化

来訪客の増加によって、観光や飲食、交通、旅行代理店などの観光関連事業が活性化します。また、I Rの運営に伴い、さまざまな食材、物資、サービスなどの需要が高まり、地元での調達が可能になります。さらには、関連産業の民間投資が拡大し、幅広い経済波及効果も期待できます。

日本基準から世界基準へ
観光活性化の起爆剤



5 農水産業の活性化

I Rによって農水産物や畜産物など、地元の食材や特産品の需要が高まります。それに向けて、ICTを活用したスマート農業などの取り組みによって生産性を高めることで、農水産業の活性化も期待できます。

「地元調達」による
農水産業の活性化



6 財政基盤の強化

I Rの運営に伴う収入の一部は、本市の財源として観光や地域経済の振興などに充てられます。また、I Rの固定資産税などの市税の増加によって、本市の財政基盤の強化につながります。

本市の財政基盤を豊かに



I R誘致がもたらす6つの効果

本市では、I R誘致が人口減少や若者の市外流出などの課題解決につながると考えています。
I Rの設置運営を行うCAIJは総事業費を約3,500億円(開業時)、延べ来訪者数を年間約840万人と想定しており、経済波及効果(九州内)は年間約3,200億円、雇用創出効果(九州内)は約3万人を見込んでいます。ここでは、I R誘致がもたらす6つの効果について紹介します。

1 多様な雇用の創出

I Rでは多種多様な雇用の場が創出されており、海外のI Rでは900種以上の職種があると言われています。特にI Rではグローバルな国際観光人材が求められるため、給与や福利厚生などの条件が整った雇用にもつながると期待されています。また、I Rの建設・運営によって、建設業や農林水産業、観光・サービス業などの関連産業で、幅広い業種の雇用機会の拡大が期待できます。

雇用創出
約3万人

I Rで生まれる職種例 雇用約1万人

関連産業で拡大する業種例 雇用約2万人

MICE施設

イベントプランナー、通訳(多言語)、受付、ゲストリレーションズ、アシスタント、照明スタッフ、音響スタッフ、誘導案内など

ホテル

ホテルコンシェルジュ、バトラー、フロント、ドアマン、ベルスタッフ、キャッシャー、シェフ、パティシエ、ソムリエ、ハウスキーパー、ホテルマネジメント、リテールマネジメント、セールス、プランニング、財務、監査など

送客施設

トラベルデスクスタッフ、ツアープランナーなど

商業施設

販売員、バイヤー、マネージャーなど

カジノ施設

ディーラー、マネージャー、フロアパーソンなど

I R建設関連

建設、資材生産、運搬など

I R運営関連

食品・飲料、商品小売、広告、人材派遣、情報通信、エネルギー、備品レンタル、金融サービス、教育、保険、清掃、クリーニングなど

輸送関連

鉄道、バス、船舶、ハイヤー、タクシー、レンタカー、トラック、宅配、倉庫業、航空など

観光レジャー関連

美術館、博物館、ショッピングセンター、映画館、劇場、世界文化遺産、商店街、百貨店、テーマパークなど

若者の市内就職
UJIターン



雇用の掘り起し



新たな
ビジネスチャンス



産

基地と共にIRを
「地域経済活性化のエンジン」に



佐世保商工会議所（九州IR推進協議会理事）
会頭 金子 卓也 さん

旧海軍鎮守府設置以降、「基地のまち」として発展してきた佐世保にとって、IRが基地と共に「地域経済活性化のエンジン」となることを期待しています。

佐世保は人口25万人ほどのコンパクトなまちですが、広域の経済圏や基地との共存共生によって生まれた経済エネルギーを持っており、地方都市の中でも「キラッと輝くもの」があります。佐世保がさらなる輝きを手にするためには「佐世保らしさ」を磨き上げ、文化や伝統を生かした核づくりが必要であり、IRはそのきっかけになると考えています。

今回決定したIR設置運営事業予定者はヨーロッパの国有企業グループであり、舞台となるハウステンボスもオランダの街並みを再現したものです。今回IRのコンセプトの一つに「西洋と東洋文化の調和」が掲げられており、佐世保が「東アジアの中のヨーロッパの発信地」となれば、本市のさらなる発展を期待できます。

また、経済面でも地方創生や地域経済への貢献として「地元調達100%」が掲げられており、私たちも大きな期待を寄せています。IRでは年間約840万人もの来訪者が見込まれており、安定した供給を継続して行うためには、佐世保に限らず「オール九州」での支援体制が必要です。そのために九州経済界の皆さまなどにご協力いただき、九州IR推進協議会を立ち上げ、IRの需要を九州全体で受け止めたいと考えています。加えて、IRに関連する企業の皆さまには、佐世保やその周辺に営業所などを構えていただき、地域に根付いた地元企業となれるように、私たちも行政と連携しながら支援をしていきます。

IRは100年に一度のビッグチャンスであり、誘致できれば鎮守府設置以来の「第二の開港」とも言えるインパクトを世界に与えます。IR誘致を好機と捉え、将来のまちづくりの礎を築くために、これからも全力で貢献していきたいと思っています。

（取材日 10月26日）

KIRCC発足式での共同宣言の様子



九州IR推進協議会（KIRCC）

九州経済界、議会、行政で構成される協議会。本年4月12日には九州へのIR誘致、IR需要の地元調達確保、九州全域の魅力発信を実行する共同宣言が行われました。



このページで紹介している皆さんのインタビュー（完全版）を市ホームページで公開しています。スマートフォンなどで下の画像を読み取ってご覧ください。



学

ホスピタリティ観光人材の育成拠点に



九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会（長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科学科長）
座長 井上 英也 さん

IRの設置運営事業予定者が海外の国有企業グループに決まり、これからの観光産業で求められる人材は大きく変わります。これまで日本では何でも応用の利く人材が求められてきましたが、海外では専門性の高い人材が求められ、加えてこれからの国際競争を勝ち抜くためには、ホスピタリティ（おもてなし）あふれる人材も必要とされています。

観光先進国では、専門知識を学びつつ将来に向けた実践教育に力が注がれています。そのため、日本でも学生たちが魅力的なキャリアを構築できる仕組みをつくり、IRで期待される先端の観光人材を育成していくことが、これからの私たちの役割だと考えています。また、団体から個人に旅行形態が大きく変化する中、観光客はその土地ならではの多様な経験を求めて目的地を訪れます。そのため、IRに限らず佐世保の魅力を観光的な視点で考える人材が必要となります。

長期的には、未来を背負う子どもたちが早い段階から観光資源を生かしたまちづくりの意識を持ち、実践できる機会を与えられるようにしなければなりません。この春設置した同コンソーシアム準備会では、産官学が協力し合い、グローバルな環境で活躍できるIRで期待される幅広いかつ専門的な知識と経験を持つ観光人材を育成する取り組みを進めていきます。

ポストコロナで観光産業は、再びさらなる成長に向かいます。IRが起爆剤となり、佐世保が国内外の旅行者から選ばれる滞在の地となれば、多くの雇用が生まれ、定住・交流人口の増加につながり、新たなビジネスチャンスも生まれます。そして、「内なる国際化」に向けて、これから先はいろいろな国籍の人と一緒に働く社会になります。「多様性を受け入れる風土」を生かし、IRを契機に佐世保が持つ国際性が開花し、新たな時代に輝ける観光国際都市になることを期待しています。

（取材日 10月21日）

関係者とオンライン会議を行う様子



九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会

長崎国際大学と長崎県立大学、県、市の4者で設置したコンソーシアム（共同事業体）準備会。地域の観光産業で活躍するグローバルな人材育成を検討しています。

民

「世界一安全安心なまち」を目指して



九州・長崎IR安全安心ネットワーク協議会準備会（東部地区自治協議会連絡協議会 会長）
会長 横石 政夫 さん

IRには「多様な雇用の創出」や「定住人口の増加」などさまざまなメリットがある一方で、キャンセル等依存症や治安維持などの懸念があります。IRが整備されることを見据え、いかにこれらのリスクを最小化していくかが今後の課題になります。周辺地域における安全安心の確保と快適な生活環境の整備に向けた検討を行い、参画団体と情報共有を図り、協働で対策を講じることを目的として、昨年11月に九州・長崎IR安全安心ネットワーク協議会準備会を設置しました。

準備会は大学病院やPTA、防犯協会、警察、IR事業者、大学、東部7地区の地区自治協議会などで構成されており、IRに対して慎重・中立的な立場を取られている方も参加しています。いろいろな考え方があの中で、メリット、デメリットを正しく理解し、判断していかなければなりません。そのため、会合では懸念事項に対する専門家の意見を伺いながら、それぞ

れの立場で幅広く前向きな議論を重ねています。

一方で、私は東部地区自治協議会連絡協議会の会長も務めており、IRはまちづくりの一環と考えています。今後地域の代表として「国際観光拠点の周辺のまちづくり」と「安全安心なまちづくり」をいかに共存させていくかを考えていく必要があります。

IRの設置運営事業予定者が決まり、10月には事業者による説明も行われました。これからIR計画が作成されていく中で、事業者からカジノ施設などの具体的な説明を聞きながら議論を深めていきたいと思っています。

また、現在議論している懸念事項対策は、IRに限った話ではなく、今後のまちづくりを進めていく上でも大切なことだと認識しています。これからも地域住民や参画団体の皆さんと議論を重ね、東部地区としても「世界一安全安心なまち」として国内外の模範となるまちを目指していきたいと思っています。

（取材日 10月28日）

関係者と課題について協議する様子



九州・長崎IR安全安心ネットワーク協議会準備会

周辺地区自治協議会、大学病院、PTA、防犯協会、警察、IR事業者、大学などで構成される準備会。キャンセル等依存症や治安維持、青少年健全育成などの対策を検討しています。

特集に関する問い合わせ IR推進室 ☎24・1111